



展示会の様子

企業新ものづくり・新サービス「2019」に
出展したところ、カジュアルスポーツや
ファッション関連企業だけでなく、産業資材用



株式会社林田 会社外観

サステイナビリティ」を事業の中心に据えて、事業計画を立案している状況です。
そこで、多様な染糸を取り扱う株式会社林田は、このような業界の動向に注目し、これまで取引のあった中木戸織物有限会社、株式会社トレスアクアの2社と共同で「繊維企業連携新素材開発等支援事

業」を活用し、エコ新素材の開発および販路開拓に取り組ましました。

再生糸を用いて 生地を開発する

日本の原糸メーカーが製造する糸を使って、カジュアルスポーツ用途やファッション用途などの生地「SUSTEX（サステックス）」の開発を行い、販路開拓のための活動を行いました。

まずはカジュアルスポーツ用途の生地です。リサイクルナイロン、リサイクルポリエステルを使用して、これまで得意としてきた伸縮性があつて軽い生地にしました。販路開拓のために、昨年12月に開

催された「中小

近年の繊維業界のトレンド

近年、「SDGs（持続可能な開発目標）」「サステイナブル（持続可能性）」という言葉が耳にします。繊維業界では世界的なキーワードとして取り上げられています。具体的には素材を環境に配慮したものにすることで、リサイクルポリエステルやバイオ由来の合繊、植物由来の再生セルロース繊維、オーガニックコットンなど様々なエコ素材が採用されています。

なぜ、エコ素材が注目されるようになったのでしょうか。一つは、欧州を中心に社会的に地球環境への関心が高まり、これがファッションに波及してきたといえます。とくに契機になったのは、2015（平成27）年に国連サミットで採択されたSDGsと、同年に締結された気候変動抑制を指したパリ協定です。そこでは各国政府の役割だけではなく、民間企業による経済活動でもサステイナブルの取組が重要とされ、これが経済活動の推進力

として一気に注目されるようになりました。

福井県での事例紹介

アパレルメーカーや繊維素材メーカーをはじめ業界全体の動きとして、「環境」への意識が高まっています。さらには、環境配慮素材であることが前提で、数年後には環境配慮素材を使った商品のみ取り扱うといった宣言をする欧米アパレルブランドも存在します。こうした世界の動向もふまえ、福井県・石川県と繋がり深い大手企業も、「環境・エコ」や「持続可能性」

の生地を扱う企業など、新たな分野の企業からの評価や情報を得ることができたようです。評価や情報はその織物によって様々で、「バリエーションがもっとあった方が良い」「機能性ももっとあった方が良い」などがありました。様々な分野のニーズにこたえられるように改良する必要がありました。また、スポーツ分野とサステイナブルという考え方は親和性が非常に高く、ニーズも高いことから製品が高く評価されました。

次にファッション用途で

す。主にリサイクルナイロンを使用し、幅広いファッション用途へ向けて販路開拓を行ったところ、最終生地のユーザーが、日本国内か欧州やアメリカ、アジアなど、その国によってサステイナブルの関心の温度差がかなりあること、環境に優しい素材を使用している事が売りに直結することはない、最終ユーザーがそれぞれ強く意識している訳でもないということを感じました。しかし、特に欧州のトップブランドなどは、

Contents

- 1 高まる環境への意識 ~環境に配慮した製品を作る~
- 3 【企業事例①】(株)大麦倶楽部
- 4 【企業事例②】(株)マーベルコーポレーション
- 5 【企業事例③】(株)五十嵐製紙
- 7 実際どうなの？ レジ袋の有料化
- 8 レジ袋製造会社についてみた！ (株)ミヤゲン
- 9 【企業事例④】(株)三和商会
- 10 【企業事例⑤】(有)あまから
- 11 よろず支援拠点成果 相談ノート
- 12 Start a New Project
- 13 今月の注目企業 (株)ウノコーポレーション
- 15 こんにちは。FOIPです。
- 16 グッドデザインシンキング
- 17 総合相談
- 18 ふくいAIビジネス・オープンラボ
- 19 インフォメーション
- 21 新スポット巡礼他



採用されたコレクション



「SUSTEX」のサンプル

企業あるいは人類として取り組まなければならない必須のミッションであるという認識なのだと感じました。そのため、可能な限りそういった素材を選択していく事が益々必要であるのではないのでしょうか。また、今回開発した生地は、欧州のトップブランドの一つである「Jil Sander（ジルサンダー）」の2020年コレクションに採用されました。今後、「SUSTEX」

がどのように広まっていくかに目が離せません。

福井県では他にも、環境に配慮した製品を開発して売り上げを伸ばしている企業があります！
次のページへ

高まる

環境への意識

~環境に配慮した製品を作る~

近年、日本の繊維業界では、化石資源を原料としない「植物由来素材」や、自然環境中で分解する「生分解性素材」を糸の原料にするといった「環境」への意識が高まっています。そんな中、福井県では繊維以外の企業でも環境に配慮した製品を開発するといった「環境」を意識した事例が増えてきています。

そこで、それらの事例を取材し、経営者の着眼点や日頃の考え方などを紹介。合わせて7月より有料化になり話題になったレジ袋について、製造会社にレジ袋の需要とその推移も取材し、近年の福井県内企業の環境を意識した動きについてご紹介していきます。

